

平成 22 年 6 月 6 日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20820014

研究課題名（和文） 19 世紀フランス文学における他者の表象

研究課題名（英文） How 19th century French writers depicted foreigners

研究代表者

畑 浩一郎 (HATA KOICHIRO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・助教

研究者番号：20514574

研究成果の概要（和文）：

異文明との接触が質量両面で劇的な発展を遂げていく一九世紀のフランスにおいて、「他者」はいかなる形で文学作品の中で描かれるのかという問題を、主に小説、旅行記というジャンルに即して検討した。「他者」をめぐる理論の構築が進む世紀後半については見通しを立てるだけにとどまったが、世紀前半については、実際に様々な国を訪れた上でその経験を多様な形で文学作品に取り入れたシャトーブリアン、ネルヴァル、フロベール、ポトツキなどについて相当の成果を得た。

研究成果の概要（英文）：

Contacts with different cultures increased and deepened in 19th century France. The purpose of this project is to show how « others » were described in literary works of this period, especially in the novels and in the accounts of journeys. Whereas we contented ourselves with forming a simple perspective for the second half of the century, when theories on « others » had spread, we could get many results from the first half of the century, especially from writers such as Chateaubriand, Nerval, Flaubert and Potocki, as some of their writings were directly inspired from their personal travelling experiences.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008 年度	1,330,000	399,000	1,729,000
2009 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,530,000	759,000	3,289,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学

キーワード：(1) 仏文学 (2) 19世紀 (3) 他者 (4) 旅行記 (5) オリエンタリズム
(6) ロマン主義 (7) 異文明 (8) 中近東

1. 研究開始当初の背景

近代フランス文学を考える上で「他者」をめぐる問題は重要となる。ボナパルトのエジプト遠征（1798-1801）を契機に、フランス人の世界観はこれまでと比べて飛躍的に拡大し、また彼らが実際に西洋キリスト教文化圏の外側に位置する人々と相対する機会も増加していく。こうした事情は当然、作家の創作活動にも影響を与えることになる。彼らにとって「他者」について考えをめぐらせることは、同時にまた、それに対置する「自己」についての考察を積み重ねることにもなり、その思弁は弁証法的に深みを増していく。文学者たちのこうした営みを、それぞれの時期やジャンルに即して考察することで、「他者」という概念をめぐる時代を俯瞰する見取り図を作成することが期待できる。

2. 研究の目的

本研究は、すでに多くの研究の蓄積が見られるそれぞれの作家の創作活動について個別に分析するのではなく、「他者」という問題をキーワードにして大局的に一九世紀フランス文学を捉え直すことを目的とする。「他者」が描かれるのは、なにも旅行記など、作家の具体的体験が直接主題となるジャンルにとどまらない。それは小説や、詩といった、よりフィクション性が色濃い作品にこそ興味深い形で現れている。また一九世紀は「人種」にまつわる議論が進んだ時代でもある。ゴビノーやルナンといった知識人たちの考

察は当然文学者たちにも影響を与えている。こうした時代背景に配慮しつつ、一九世紀フランス文学における「他者」の表象という問題を多角的に分析することが本研究の目的となる。

3. 研究の方法

(1) 十九世紀前半の文学者にとってまず「他者」として現れるのは、中近東諸国に住む「オリエント人」である。ロマン主義時代に流行を見せたオリエント旅行記を主な検討材料にしつつ、アラブ人やトルコ人、ユダヤ人といった、様々な点でフランス人とは異なる人々がどのように描き出されているかという問題を分析する。

(2) 十九世紀後半には「他者」をめぐる理論化が進む。「宗教」や「人種」といった複雑な問題とも絡めながら、その模様を当時の文学作品や他の資料を用いて考察する。

(3) 小説や詩など、作家の想像力がより強く働く作品において「他者」がいかなる描かれ方をするかを検討する。実際に異国を訪れることなく文学創造を行ったユゴーやバルザックにとって「他者」とはいかなる意味を持ったのかといった問題について考察を重ねる。

(4) 得られた成果を紀要論文集や学会発表などで発表していく。

4. 研究成果

(1) まず一九世紀以前の文学作品において

「他者」の言辞はどのように生成したかを、百科全書派の哲学者たち（ディドロ、ルソーなど）と大航海時代に遡る船乗りたち（ロベール・シャール、ルイ・ド・ブーガンヴィルら）の著作を通して理解することに努めた。

(2) その結果、「他者」をめぐるのは「科学的言辞」と「文学的言辞」と名付けることのできるふたつの異なるディスクールが長年、せめぎ合いを繰り返していることが明らかとなった。一九世紀に入ってから問題となるのは、したがって、いかにこの対立が乗り越えられるかということであり、シャトーブリアンをはじめとしたこの時代の旅行記作家や小説家は、こうした問題を念頭に置きつつ創作活動を行っているということを、さまざまな作品の中で確認することができた。

(3) 「他者」にまつわる議論は、一九世紀末のドレフュス事件や、さらには二十世紀のナチスドイツによるユダヤ人排斥運動にもつながっていく。その起源が十九世紀に遡ることは確実であり、旅行記、小説を中心としたさまざまな作品の中でその痕跡を確認した。

(4) その成果を紀要論文や、学会での発表にまとめた。また一九世紀フランスのオリエンタ旅行記を題材に「他者」をめぐる様々な問題を考察した著作 (*Voyageurs romantiques en Orient*, L'Harmattan, Paris, 2008) により、地中海学会ヘレンド賞を受賞することができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

① 畑浩一郎、「自分を語る旅行者 シャトー

ブリアン『パリからエルサレムへの旅程』、『仏語仏文学研究』第 39 号、2009 年 10 月、p. 25-44 (査読あり)

② 畑浩一郎、「他者との邂逅 —— フランス・ロマン主義時代のオリエンタ旅行記をめぐる」、『地中海学会月報』第 317 号、2009 年 3 月、p. 5 (査読なし)

③ 畑浩一郎、「ゼトネビーとゼイナブ —— 女主人公の名前をめぐる」、『ネルヴァル手帖』第 5 号、2008 年 12 月、p. 123-143 (査読なし)

[学会発表] (計 1 件)

① 畑浩一郎、「他者との邂逅 —— フランス・ロマン主義時代のオリエンタ旅行記をめぐる」、地中海学会定例研究会、2008 年 12 月 13 日、東京大学本郷キャンパス

[図書] (計 1 件)

① 畑浩一郎、*Voyageurs romantiques en Orient, étude sur la perception de l'autre*, coll. Critiques littéraire, l'Harmattan, Paris, 2008, 410 p.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/futsubun/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

畑 浩一郎 (HATA KOICHIRO)

東京大学・大学院人文社会系研究科・助教
研究者番号：20514574

(2) 研究分担者
なし

(3) 連携研究者
なし